

クラウンディスタルシュー装着後に小児歯科専門医が管理継続し良好な永久歯列を獲得しえた2例

○日高 聖¹、岡本篤剛²、藤原 卓¹

¹ 長大院・医歯薬・小児歯

² おかもとこども矯正歯科クリニック（兵庫県西宮市）

【目的】

乳歯列期に第二乳臼歯を早期喪失した場合に起こる第一大臼歯の近心移動は、直接的にアーチレングスの喪失につながり叢生の原因となる。クラウンディスタルシューは、そのような問題を防ぐ重要な保険装置であるが、設計・製作・装着後管理の困難さから実際に導入されている例は少ない印象を受ける。筆者らは、クラウンディスタルシュー装着後、良好な永久歯列を獲得しえた長期管理症例を経験したので報告する。

【症例1】

初診時年齢：4歳0か月 男児

主訴：むし歯の治療を途中で中断している。

現病歴：約半年前に当時在住していた五島市の一般歯科医院でう蝕治療を行っていたが、兄の小児科疾患治療のため長崎市内に転居し、以来治療を中断していた。

診断および処置方針：LE う蝕症4度（C4）を含む多数歯う蝕。LE は抜歯、クラウンディスタルシュー装着の方針とした。

経過：4歳2か月時、LE 抜歯およびクラウンディスタルシュー装着。

6歳1か月時、LE 萌出のためディスタルシュー除去、上顎ホールディングアーチ装着。

7歳8か月時、五島市へ再び転居。

8歳9か月～9歳8か月：第一期治療

13歳11か月（最終来院）時、家族性と思われるⅢ級傾向があるため、成長終了後に第二期治療を行いたいが、患児本人・保護者にその希望がない程度の永久歯列を獲得・維持している。

【症例2】

初診時年齢：4歳8か月 女児

主訴：E7 が痛い、なかなか治らない。

現病歴：約2か月前にE7 疼痛があり近医受診、同院にて歯髄処置を受けるも再び痛み出すと同時に発熱したため、当科受診した。

診断および処置方針：E7 根尖性歯周炎を含む多数歯う蝕。E5 永久歯胚はE7 根尖性歯周炎の影響により偏位していたため、E7 は抜歯、クラウンディスタルシュー装着の方針とした。

経過：4歳8か月時、E7 抜歯およびクラウンディスタルシュー装着。

6歳3か月時、E6 萌出のためクラウンディスタルシュー除去、クラウンループ装着。

6歳10か月時、クラウンループ除去、下顎リソナルアーチ装着。

8歳5か月時、兵庫県西宮市へ転居のため、同市内の小児歯科専門医へ転医、管理継続した。

10歳1か月～10歳11か月：第一期治療

12歳4か月～14歳3か月：第二期治療

【考察】

2症例ともに、初診時には第二乳臼歯の抜歯を要する多数歯う蝕を有していたが、クラウンディスタルシューを適切に応用したことにより第一大臼歯の近心移動が回避された。さらに永久歯交換まで治療的介入を含めた管理を長期継続し、非抜歯でう蝕のない良好な永久歯列を獲得しえた。症例2では、転居後も小児歯科専門医間で資料を引き継いで連携したことにより、良好な予後を得た。